

経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた(初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん)

【経営発展支援事業】

採択年度	営農類型	米麦等	野菜等	果樹	畜産
令和4年(2023年)		福島県 鈴木 義彦 さん	北海道 濱田 剛・きずき さん	山形県 古山 寛 さん	岩手県 匿名希望 さん
		※島根県 匿名希望 さん	青森県 斉宮 大・知佳 さん	※島根県 匿名希望 さん	岐阜県 岡山 直人 さん
		※鹿児島県 中村 隆太郎 さん	秋田県 吉田 真大 さん	徳島県 匿名希望 さん	熊本県 田上 直人 さん
			山形県 中村 誠 さん		鹿児島県 匿名希望 さん
			埼玉県 横田 寛明 さん		
			栃木県 H. M・T さん		
			石川県 番場 智仁 さん		
			三重県 匿名希望 さん		
			京都府 芦田 泰子 さん		
			奈良県 木村 幸啓 さん		
			兵庫県 村上 玄一 さん		
			鳥取県 森田 智史 さん		
			山口県 匿名希望 さん		
			高知県 武政 大地 さん		
			宮崎県 匿名希望 さん		
			鹿児島県 竹之内 憲俊 さん		
			鹿児島県 山元 真之介 さん		
			鹿児島県 佃 和絵 さん		
			※鹿児島県 中村 隆太郎 さん		

※ 複数の類型について営農

濱田 剛さん(48歳) きずきさん(44歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

花苗を取り扱う会社や飲食関係の仕事に勤めたことで、「土」や「食」に関係する仕事に就きたいと考えていた。「食」に関わる仕事を模索する中で、知人からの紹介もあり、月形町の地域おこし協力隊(農業研修員)に応募。2年間栽培技術を学んだ後、比較的初期投資が少ないミニトマト栽培を中心とした営農を開始。

導入した機械・施設等

- ・ロータリー等
アタッチメント一式



初期投資を行う上で留意したポイント

月形町で地域おこし協力隊として2年間活動を行う間、将来にわたって農業経営を続けていくためにはどのような施設や機械が必要であるかを考え、十分な投資計画や営農計画を練った上で必要な機械・施設を積極的に導入。

導入の効果

- ・農業の基本となる「土づくり」に関する関連機械を導入したことにより、作業時間の効率化や計画的な栽培、安定的な収量の確保が図られた。
- ・ミニトマトの茎や葉などを堆肥化するとともに、圃場へすき込み、土壌へ還元を進めることで、化学肥料の低減とコスト削減を図った。

就農の状況と今後

就農準備 (R2.4~R4.3)

- ・地域おこし協力隊として活動しながら農業研修を行い、就農開始時の資金を貯蓄。
- ・JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受けながら、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

- ミニトマト11a (ハウス4棟)
- ・夫婦での農業経営開始。
- ・国や町の補助金を活用しハウス施設、倉庫やロータリー等アタッチメント一式を導入。
- ・収量を向上させるため、土壌の改良を実践。

今後の目標 (就農5年後)

- ミニトマト70a (ハウス8棟)
- ・所得を安定的に確保するため、機械やハウス設備の拡充を進めていきたい。
- ・農業所得は550万円を目指す

青森県 齊宮 大さん（32歳） 知佳さん（37歳） （営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

自分の頑張りが作物の品質や収量に反映されやすい職業として、農業に魅力を感じていた。また、りんご農家である親の手伝いを通して、農作業が楽しいと思うようになり、就農を決意。農業次世代人材投資事業（準備型）を利用して先進農家の下で栽培技術を学び、令和4年から経営開始。

導入した機械・施設等

パイプハウス2棟

（環境観測装置、自動灌水装置、自動換気装置含む）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・ 専業農家として生活するためには、確実な収益を見込める経営計画が必要と考えた。そのため、綿密に計画を作成し、計画達成に必要な機械、設備を積極的に調査した。
- ・ 農業は天候に左右されやすいため、気候影響の少ない施設栽培に着目した。また、温度や湿度の異常をいち早く検知できるよう、環境観測装置の導入を検討した。

導入の効果

- ・ ハウス増設によって複数品種の栽培が可能となり、経営の安定化が見込めるようになった。
- ・ 環境観測装置導入により、ハウス内に異常が発生した場合はすぐに対処できるようになった。また、膨大な環境データと生育診断結果を関連させることで、収量の安定化が期待できるようになった。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R3）

<R2>

- ・ 「新・農業人フェア」に参加
- ・ 先進農家と交流開始
- ・ 営農計画を作成開始

<R3>

- ・ 農業次世代人材投資事業（準備型）を利用し、先進農家の下で研修開始

外部リンクは
こちら！

現在（就農1年目）

ミニトマト6.5a（ハウス2棟）

- ・ ハウス2棟を新設し、夫婦共同で農業経営開始
- ・ 経営発展支援事業を利用し、ハウスを2棟増設

今後の目標

ミニトマト13a（ハウス4棟）

- ・ 販路を新たに開拓する。
- ・ 作業の効率化、栽培スキル向上を図る。

匿名希望 さん (29歳)

(営農類型：繁殖牛)

新規就農を志した経緯・背景

- ・実家が畜産経営を行っており、幼い頃から就農（畜産業）したい気持ちがあった。10年間は、農業関係団体に勤めていたが、改めて就農したいと思っていたところ、第三者継承の話を目にし、就農を決意した。
- ・本格的な経営開始前に実家や継承元で技術を学び、令和4年9月に経営を開始。

導入した機械・施設等

繁殖肉用牛 18頭



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・利用可能な畜舎（一部）や機械は第三者継承により取得することで、初期投資にかかる費用を抑えた。
- ・今後の経営を見据え、さらに初期費用を抑えるため、国庫事業やJA事業等の複数事業を活用して、家畜の導入や畜舎の修繕等を行った。

導入の効果

- ・事業を活用して家畜の導入を行うことで、初期費用を抑えられたとともに、今後の確実な収入確保につながった。
- ・今後は計画的に出荷を行い、新たな機械や雇用の導入を検討しつつ、就農5年後には所得320万を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R4.5~9)

- ・実家や継承元で研修を行い、技術を習得。
- ・各関係機関から支援を受け、複数事業の活用準備（青年等就農計画の認定や家族経営協定の締結等）を実施。

現在 (就農1年目)

繁殖肉用牛：20頭
預託肥育牛：112頭

- ・第三者継承により、畜舎及び機械を取得するとともに、事業を活用し、家畜を導入。
- ・日々の作業は、継承元の支援を受けながら実施。

今後の目標 (就農5年後)

繁殖肉用牛：25頭
預託肥育牛：192頭

- ・計画的にパート雇用を行い、月1回程度の休暇が取れる経営を目指す。
- ・農業所得の目標は320万円。

吉田 真大 さん (21歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

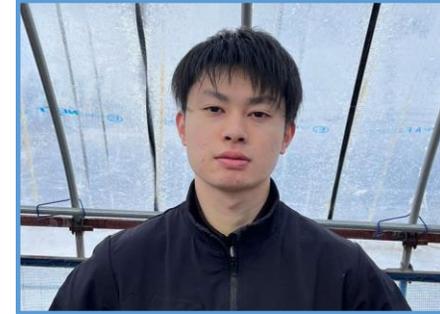
新規就農を志した経緯・背景

祖父が農業をしていた影響で興味を持ち、高校では農業コースに進学、卒業後は隣県の営農大学校へと進み、主に中玉トマトの隔離栽培について学んだ。

この先は「知識」よりも「技術」という実践意識のもと、大学卒業直後の令和4年に就農。認定農業者である祖父や周囲の仲間を「師匠」に、農業者としての腕を磨く。

導入した機械・施設等

- ネギ根葉切り皮むき機 1台
- 防除機 1台
- パイプハウス 1棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 単一品目でのリスク回避のため、複数の園芸品目の組合せを模索し、就農初年目からネギとミニトマト栽培に取り組むこととした。
- 品目間で共有できない機械は、その分、初期投資が高むことになるが、借用可能な機械や施設については極力それらを利用することとし、ネギで最も労力を要する調製機械、頻繁に使用する防除機や生産拠点となるパイプハウスは事業導入することとした。

導入の効果

- ネギ根葉切り皮むき機導入により、収穫後、出荷までに求められる速やかな調製に、円滑に対応することができた。
- 防除機導入で適期防除が可能となった。
- パイプハウスは、ミニトマト生産において、降雨をはじめとする環境の影響を抑えるうえで必須となっており、事業導入したことで安定的に品質を保つことができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~4)

- 営農大学校での課題研究、祖父からのアドバイスや友人との情報交換を通じ技術を取得
- JAや市から営農計画等に関する助言を得て、青年等就農計画を作成
- 小型特殊自動車、フォークリフト、大型特殊自動車の免許取得



現在 (就農1年目)

- ネギ 10.0a
ミニトマト 2.6a (ハウス1棟)
- 露地10aと事業で新設したハウス1棟で農業経営を開始
 - 農業所得は約25万円



今後の目標 (就農4年後)

- ネギ 42.0a
ミニトマト 9.2a (ハウス3棟)
- 収益拡大と経営の安定化に向け、ミニトマトのハウス2棟を増設
 - 農業所得の目標は196万円

中村 誠 さん (46歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

約25年間会社員をしていたが、自分の手でものづくりをしたいとの思いがあり農業に興味を持つようになった。

自分で野菜を作りたいと考えるようになり、農業就業人口の高齢化により担い手が不足していることも知り、必要とされている仕事をしたいとの思いもあり、就農を決意した。

導入した機械・施設等

トラクター
運搬車



初期投資を行う上で留意したポイント

就農開始時に必要な設備を整理し、優先順位を付けて導入の検討をした。資材等の価格高騰が始まった時期と就農開始時期が重なり、値上がり前に導入しコストを抑えたいと思い、情報の収集に注力した。

導入の効果

トラクターを導入したことにより、いつでも使用できるため最適なタイミングで耕うんができるようになった。

運搬車を導入したことにより、栽培終了後のミニトマトをハウスから搬出する際の労力と時間を削減できる。また、重量物の運搬が楽になった。

就農の状況と今後

就農準備 (R3)

先進農家での研修期間中に準備を進めた

- ・農地の取得
- ・パイプハウスの建設準備
- ・資金の準備 (融資)
- ・資材の購入

現在 (就農1年目)

ミニトマト(施設栽培)11a
ブロッコリー(露地)20a

(冬期間)
わさび菜(施設栽培)11a

今後の目標 (就農5年後)

ミニトマト(施設栽培)22a
ハウスを増やしミニトマトの栽培面積を拡大したい

ネット販売など直販で収入を増やしたい

古山 寛 さん (32歳)

(営農類型：露地・施設果樹)

新規就農を志した経緯・背景

祖父が農業を行っていたため、農業が身近で興味を持っており、高校・大学と農業を学んだ。食品会社に勤め、農家の方々と仕事をしているうちに自分も生産者になりたいという気持ちが芽生え、農業体験や情報収集を経て就農を決意。寒河江市に移住して、農業次世代人材投資事業（準備型）で2年間研修ののち、令和4年に独立就農開始。

導入した機械・施設等

スピードスプレー 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- 作業の省力化・効率化を図り、将来にわたって経営を安定させるために初期投資を行い、投資計画を練った上で必要な機械を導入した。
- どのようなものを整備すると良いか、経営開始前から地域の先輩農家の方々に相談した。

導入の効果

- スピードスプレーを導入することにより、経営規模拡大が図れる。
- 作物（品種）の組み合わせにより安定生産と労働力の平準化を図るとともに、機械を導入し作業の省力化・効率化を進めることで、経営発展や持続可能な農業を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R3）

- 農業次世代人材投資事業（準備型）を活用し、令和2年4月に先進農家で研修開始
- 先輩農家の方々にアドバイスを受けながら、就農準備を進める



現在（就農1年目）

さくらんぼ 18a りんご 20a
ラ・フランス 12a もも 40a

- 事業を活用し、スピードスプレー導入
- 令和4年4月に経営開始
- 農業所得は約160万円



今後の目標（就農5年後）

さくらんぼ 25a りんご 20a
ラ・フランス 23a もも 55a

- 販路を新たに開拓し、個人贈答・インターネット販売に着手
- 農業所得の目標は250万円

(営農類型：水稲)

鈴木 義彦さん (32歳)

新規就農を志した経緯・背景

子供のころから農業をやりたいという夢があり、高校卒業後は農業短期大学にて技術・経営を学んだ。民間企業で勤務していたが、親の年齢を考慮し就農を決意した。本格的な就農の前に親元で栽培技術を学び、令和4年度に親から継承、経営を開始した。

導入した機械・施設等

コンバイン（4条）1台



初期投資を行う上で留意したポイント

今後規模拡大するにあたり、機械の導入や更新が必須となっていた。特に資金が必要となる大型機械について、補助事業・融資をスムーズに活用できるよう、早めに関係機関に相談していた。

導入の効果

コンバイン（4条）の導入により、午前中に籾摺りを行い、午後から刈取を開始しても、乾燥機がいっぱいになり、作業効率が上がった。

今後は、乾燥機の導入も検討して、さらなる作業効率向上に努めたい。

就農の状況と今後

就農準備（R3）

- 親からアドバイスを受けながら栽培技術を習得。
- 市、県のサポートを受け、青年等就農計画を作成。



現在（就農1年目）

水稲（660a）

- 親の農業経営を継承
- コンバイン（4条）を導入し、規模拡大にむけて準備を始めた。
- 農業所得は約150万円。



今後の目標（就農5年後）

水稲（1,000a）

- 地域で離農する方から農地を借り規模拡大する。
- 農業所得目標は440万円。

横田 寛明さん (24歳) (営農類型：施設野菜 [きゅうり])

新規就農を志した経緯・背景

昔から祖父の実家で畑仕事を手伝っていた。その中で、農業で生活していきたいと思うようになった。

そんな時、地域にブランド化された野菜があることを知った。そこで、農業大学校に入学し、農業経営に必要な基礎的な知識や技術等を学んだ。その後、担い手塾に入り、実践的な指導を受けた。担い手塾卒業後の令和4年に新規就農した。

導入した機械・施設等

鉄骨ハウス 10a
(暖房機、内張等)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・指導農業士や他の生産者からのアドバイスを参考にした。
- ・平成26年の雪害により、地域のきゅうり栽培施設で被害が発生したことから、耐候性が十分なハウスにした。
- ・大型ハウスという大きな金額の投資なので、リスクとリターンを慎重に判断した。

導入の効果

将来にわたりきゅうりを栽培するため、災害に強いハウスを導入することで安心して営農することができる。

換気やかん水等を自動化することで、管理・選果作業等に集中して労力がかけられる。

就農の状況と今後

就農準備 (H31~R3)

野菜栽培技術の座学及び実習、
農業簿記等の経営に関する講義等 (大学校)
きゅうり栽培全般 (農業担い手塾)

- ・平成31年度埼玉県農業大学校入学
- ・令和3年度小鹿野町[明日の農業担い手育成塾](#)卒業。

外部リンクは
[こちら](#)

現在 (就農1年目 R4)

施設きゅうり 10a

- ・担い手塾研修ハウス5aを継続して借り、半促成と抑制きゅうりを栽培。
- ・鉄骨ハウス10aを建設後、令和5年2月から半促成きゅうりの栽培を開始。

今後の目標 (就農5年後 R9)

施設きゅうり 10a

- ・農業所得の目標は350万円
- ・週休2日の導入。

H.Mさん(46歳) H.Tさん(45歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

H.Mさんは、県外の園芸高校を卒業、青果物販売に携わっていたが、大好きないちごを自分で作りたと思うようになったため、夫婦で栃木県内のいちご農家へ独自に農家研修した。

その後、鹿沼市のいちご研修制度で2年間学んだ後、令和4年度に農地取得（貸借）、機械・施設整備を行い、独立自営就農した。

導入した機械・施設等

パイプハウス 6棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 青年等就農計画を作成する際、普及員や市役所、JA、研修派遣先の農業法人等に相談しながら施設整備内容を検討、経営発展支援事業や県・市単補助事業を組み合わせ、自己負担額を抑えた。
- 小規模でも高単収を目指すため、経営開始前からJAや地域の先輩農家等に相談して、中古の機械を探してもらいながら、投資計画を練った上で必要な機械・施設を導入した。

導入の効果

- ハウスを整備することにより、いちご栽培を開始することができ、年内から出荷が可能になった。
- 今後は、2年目以降の黒字化を図るとともに、就農4年目に規模を拡大、雇用の導入を図ることで、就農5年後には所得目標の達成を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (H30~R3)

◇H30~R元 (夫婦で研修)
いちご生産、出荷調整作業等

◇R2~R3 (H.Mさん)

鹿沼市いちご新規就農者研修

- 1年目は複数品種のいちご栽培について、一連の栽培技術研修
- 2年目は自分の研修用ハウスを管理して、実践的研修

現在 (就農1年目)

いちご (土耕) 17.3a
(パイプハウス6棟)

- 育苗ハウス1棟、井戸ポンプ、出荷調整施設、炭酸ガス発生装置、畝立て機、軽トラ(中古)、トラクタ(中古)、動力噴霧器(中古)等
- R4年12月から出荷開始

今後の目標 (就農5年後)

いちご (土耕) 20.2a
(パイプハウス7棟)

- 新品種「とちあいか」や新技術の導入による収穫量の増加、作業の効率化を目指す
- 目標9.7t (480kg/10a)
(全量JA出荷)

石川県

ばんば ともひと
番場 智仁 さん (45歳)

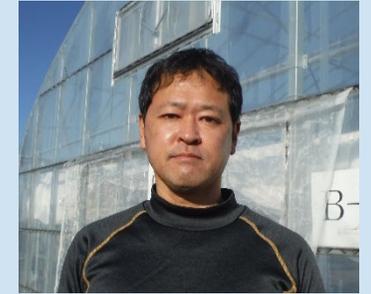
(営農類型：施設野菜 [トマト])

新規就農を志した経緯・背景

以前から祖父の家庭菜園を通じて興味があった農業を始めようと思い、JA小松市新規就農支援センター「アグリスクールこまつ」で栽培技術等を学び、トマトを主とした農業経営を行うことを決意した。

導入した機械・施設等

パイプハウス 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 就農前にJA小松市が運営する「アグリスクールこまつ」で2年間トマト栽培の基礎技術を習得。
- 就農後の施設整備（ハウス）の経費を削減するため、同JAが実施する「レンタルハウス」制度を利用した。

導入の効果

- 就農前研修の効果もあり、就農1年目から部会平均を超える収量を確保している。
- ハウスの増設を進めて土耕栽培にも取り組み、トマトの出荷量を増加させるとともにキュウリ栽培を導入し、経営の安定につなげた。
- 自分の後に続く、若い人たちにも就いてみたい仕事と思ってもらえるような農業経営に発展させていきたい。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~R3)

- 令和3年にJA小松市「[アグリスクールこまつ](#)」で研修開始
- 普及員やJAから指導を受け、青年等就農計画を作成
- 「いしかわ耕稼塾（実践科）」で農業基礎知識の習得や農業機械の作業免許取得

外部リンクは
[こちら!](#)

現在 (就農1年目 (研修2年目))

養液トマト 13a
(ハウス5棟)
所得目標 82万円/年

- 今後の規模拡大に向け、本事業でハウス2棟とその他に資金を借りてハウス2棟の計4棟を増設

今後の目標 (就農5年後)

養液トマト 13a (ハウス5棟)
土耕トマト・きゅうり 6a
(ハウス3棟)
所得目標 484万円/年

- 養液栽培ハウスの長期どりトマトを主軸に、土耕栽培のトマトやキュウリにも取り組み、所得向上を図る。

岡山 直人さん (30歳)

(営農類型：繁殖牛)

新規就農を志した経緯・背景

大学在学中、研究室のヤギ・ヒツジの飼養管理を行っており、動物と向き合う畜産分野のおもしろさを感じ、将来的には自分で畜産経営がしたいという漠然とした目標があった。肉用牛の哺育から素牛までの育成段階に特に魅力を感じ、繁殖経営をしたいと考えた。

導入した機械・施設等

繁殖用雌子牛8頭



初期投資を行う上で留意したポイント

畜産業界への新規参入ということもあり、中古牛舎を購入したり、妊娠牛を買うなど、初期投資にかかる費用をできるだけ抑えられるように工夫した。

導入の効果

経営発展支援事業の補助金があることで、自身が求めている良質な牛を導入することができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~R3)

外部リンクは
[こちら!](#)

- [飛騨牛繁殖研修センター](#)で技術を取得。
- 研修先や県など関係機関からアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- 家畜人工授精師免許を取得。

現在 (就農1年目)

肉用牛繁殖25頭

- 青年等就農計画のとおり就農。
- 労働力は自身のみのため、効率的な飼養管理を行っている。

今後の目標 (就農5年後)

肉用牛繁殖30頭

- 適切な飼養管理を徹底し、繁殖数を多くすることで、経営を安定させる。

匿名希望 さん (32歳)

(営農類型：施設野菜 [イチゴ])

新規就農を志した経緯・背景

会社員として働く中で、退職時期も含めて、すべて責任を負うものの自分で決めて実行することができる「農業経営者」に魅力を感じた。また、農業を始める上で必要な技術を学ぶことができる研修先が、地元にあったことから農業を志した。

導入した機械・施設等

育苗ベンチ 6a
予冷庫 1.5坪



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・鋼材価格の高騰により、ハウスや高設ベンチの見積額が以前に比べてかなり高額になっており、できるだけ投資額を抑えるため、既存施設・設備の借用や補助金を活用し経営をスタートした。
- ・ハウスイ式は既存のものを借用、育苗施設と予冷庫に経営発展支援事業を活用。

導入の効果

- ・育苗ベンチを導入することにより、作業性の向上、安定した苗生産が見込める。
- ・予冷庫の導入により、高温期の収穫後出荷までの果実の傷みを抑制することができ、品質の維持・向上が見込める。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~4)

(株)あぐりん伊勢に研修社員として雇用、研修を受ける。
(イチゴ栽培管理全般)

- ・令和3年5月に研修開始。
(同4年5月まで)
- ・令和4年6月に経営開始。

研修先・JA・市が連携して農地の権利取得や補助金・資金の活用について支援！

現在 (就農1年目)

イチゴを15a作付
(2連棟×2棟を借用)

- ・1年目の所得は黒字の見込み。
- ・JA部会に加入し、JAや普及センターから栽培・経営について助言を受ける。

今後の目標 (就農4~5年後)

ハウスを新たに確保 (12.5a)

- ・ハウス等施設・設備一式の導入には補助金・助成金等を活用。
- ・環境モニタリングに基づく制御等を行うこと等により、単収の向上を図り、農業所得250万円越えを目指す。

芦田 泰子 さん (42歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

地方に移住し生活したいと思ったとき、仕事も自分の好きなことをと思い農業を志した。農業で生計が立つ経営を目指すため、技術が習得できるように京都府の研修制度を活用した後、経営開始。

導入した機械・施設等

パイプハウス 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・所得の向上に必要な投資と考え、ハウス建設を決意。地域の気候条件を考慮するとハウスは数棟必要と考え早期に建てることを希望しており、負担軽減のため事業を活用した。
- ・ハウスの仕様については、同作物を栽培する先輩農家から助言をもらいながら検討した。

導入の効果

経営の柱となる万願寺甘とうを安定的に栽培し、作期を長期化することにより所得の安定を図る。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~3)

- ・空き家バンク制度を活用し移住。
- ・京都府の研修制度を活用し、就農希望地で栽培技術等を実践的に研修。

普及センター職員や地域の推進員等が営農相談や販路確保に向けて支援！

現在 (就農1年目)

万願寺とうがらし 5a
多品目野菜 35a

- ・研修で使用した農地を中間管理機構より借り受けて就農。
- ・経営発展支援事業でハウスを2棟新設。

今後の目標 (就農5年後)

万願寺とうがらし (施設) 4a
万願寺とうがらし (露地) 5a
多品目野菜 30a

ハウス、露地での万願寺甘とう栽培により所得の安定を図り、多品目野菜はスーパーや直売向けに有機栽培で栽培する。

木村 幸啓 さん (50歳)

〔※就農時49歳〕

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

幼少期に「人間は土から離れては生きていけない!」と聞かされ、いつ頃からかその思いが自分の中で大きくなり農学部に進学、農業関係に就職。食の根幹である農業が軽視され、開発により耕作地が減少、農業従事者が高齢化、後継者不足と…農作物の生産量が減少していく状況を目の当たりにし、微力ながら食の一翼を担おうと、一生の仕事として農業経営にチャレンジしようと決意。

初期投資を行う上で留意したポイント

- 先輩農家から譲り受けた施設・機械の耐用年数等を考慮し、将来の規模拡大、法人化を実現するために必要不可欠な機械（初期投資）を検討した。
- 特に生産・管理・販売のシステム化を見据えたうえでの導入を十分に留意した。
- キーワード！ ◆バランス ◆省力化・効率化 ◆将来性・耐久性

導入した機械・施設等

- トラクター18ps 1台
- 畝成形機 1台
- 自走ラジコン式動力噴霧機 1台
- 色彩選別機 1台
- 野菜保冷库
- 整地同時播種機 1台



導入の効果

作業工程の精査・改善により、作業効率が向上し、圃場の均質化と品質の向上に貢献した。

就農の状況と今後

現在（就農1年目）

今後の目標（就農5年目）

就農準備（R3.4～R4.3）

- 地域おこし協力隊事業を活用し、都市部から移住。農業後継者として主にハウレンソウ栽培の技術を習得
- サポートチームの支援を受けて青年等就農計画を作成
- 農業以外の地域協力活動への積極的な参加

ハウレンソウ26a（ハウス16棟）
ゴマ7a

- 農地利用最適化推進委員の斡旋により農地、中古パイプハウス取得
- 経営発展支援事業と併せて村単独補助事業を活用し、農機具を取得し、更には法人化に向けた準備を進めている

ハウレンソウ75a（ハウス50棟）
ゴマ15a

- ハウレンソウの施設栽培を中心に、経営を法人化
- スマート農業、省力化農業の実践により生産規模を拡大はかるとともに、生鮮野菜、生産物を利用した加工食品、冷凍食品の3温度帯の販売を目指す

村上 玄一さん (35歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

ボランティア活動を通じて集落の農業に関わり「農業の担い手は高齢の方が大半。ほとんどの人が、今後の農業や農地の心配をしている。このままだとおいしいお米を食べることができなくなるかも。」と危機感を感じた。一方、丹波篠山市の農作物の美味しさに感動し、「前職の営業スキルを生かして付加価値を生み出せるのでは」と新たな可能性に気付いた。自分がモデルの一つとなって、地域の魅力と農業の楽しさを多くの人に伝えていきたい。

導入した機械・施設等

- ①枝豆選別調製ライン 一式
(洗浄機・脱水機・供給ホッパー・選別機)
- ②枝豆脱莢機
- ③プレハブ冷蔵庫



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・初期投資にかかる費用は抑えるべしと、研修先からの助言を得て、まず研修先やほかの農家に相談し、乾燥機等の農機具は借りて対応。
- ・早期に必要な軽トラ等は自己資金で対応。トラクター、ハウス、ブームスプレイヤー等の導入には、青年等就農資金を活用。
- ・枝豆の選別調製等に必要な先進的機械は経営発展支援事業を活用。
- ・導入する農機具等の種類や能力は、市や普及員のアドバイスを受け、栽培規模に適したものを選定。

導入の効果

- ・経営発展支援事業、青年等就農資金等の活用によって、就農初年度から、枝豆選別調製等の作業の機械化を実現できた結果、効率的な生産につながり、当初の計画より早く規模拡大ができそうである。
- ・今後は、集落内の農地を積極的に預かり、加工分野にも力を入れていきたい。

就農の状況と今後

就農準備 (H31~R3)

H31年ボランティア活動を通じ丹波篠山市の営農組合と関わり、地域に溶け込む。

- ・営農組合で研修 (3年間弱)
- ・研修の一環として、自分で栽培し、技術習得+販路開拓の準備
- ・市や普及員のアドバイスを受け、研修中に得た金額や数値等を用いた現実的な収支計画、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

黒枝豆 (100a)
ベビーリーフ (施設7.3a)
黒大豆 (38a)

- ・枝豆の選別調製等に必要な先進的な機械の導入に事業を活用
- ・販路拡大のため、営業やSNSでの情報発信も積極的に行う。
- ・農業収入は約540万円 (資金除く)

今後の目標 (就農5年後)

黒枝豆 (220a)
ベビーリーフ (施設22a)
黒大豆 (38a)
加工品 (メンマ) (竹林10a分)

- ・営農組合からの斡旋で農地を拡大。
- ・加工分野に力を入れていく。
- ・農業所得の目標は約350万円
- ・農業収入の目標は約1600万円

森田 智史 さん (38歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

以前の勤務先にて農家の方と関わる機会が多くあり、農業経営に興味を持った。話を聞くなかで、自分で作ってみたい品目が見つかり、就農を決意。農業法人に約2年間勤務し、栽培技術や農業経営について学んだのち、令和4年夏に経営を開始。

導入した機械・施設等

- ・予冷庫一式
- ・ラジコン動噴1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に将来にわたって経営を安定させるには初期投資をしっかり行う必要があると考えた。
- ・どのようなものを整備し規模を拡大していくと良いか、先輩農業者や普及員に相談し、投資計画を練った上で必要な機械を導入した。

導入の効果

- ・予冷庫の導入により、収穫から出荷までの品温上昇を防ぐことができ、計画的な出荷が可能になった。
- ・ラジコン動噴の導入により、ブロッコリーの防除の省力化につながった。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~R4.7)

- ・独立就農を見据え、農業法人にて約2年勤務し栽培技術等を習得。
- ・普及員やJAから営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。



現在 (就農1年目 R4.8~12)

- ブロッコリー 60a
- ・独立し農業経営を開始
 - ・事業で予冷庫・ラジコン動噴等を導入した。



今後の目標 (就農5年後)

- ブロッコリー 80a
スイカ (ハウス・露地) 100a
ストック 6a
- ・ハウス栽培の導入、経営面積の拡大や、作付品目を増やすことで、所得確保を目指す。
 - ・5年後の所得目標は313万。

匿名希望 さん (49歳)

(営農類型：果樹 [ぶどう] ・ 水稲 [もち米])

新規就農を志した経緯・背景

義父が農業を営む地域で後継者問題が起こる中、地域における耕作放棄地の増加、栽培技術の衰退、食料自給率の低下などの諸課題を目の当たりにし、自身が地域農業を守る担い手のひとりとなることで、地域課題解決の一助になればと就農を決意しました。

導入した機械・施設等

- ・自動餅つき機
- ・ミニショベル



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・農林大学校での研修で使用されていた機械のうちで、就農時点で確実に必要と思われるものをピックアップしました。
- ・もち加工用の機械については、生産から加工、販売までの計画を市の担当者と相談しながら作成し、収益性、作業効率と費用とのバランスを考慮しました。

導入の効果

自動餅つき機…従来の手つきに比べ、負担感や作業効率が改善したことに加え、品質の安定にもつながったことで、生産力が大きく向上しました。

ミニショベル…今後行う、ぶどう栽培の土壌改良の際に掘削作業や資材投入作業で使用し、作業の効率化を図る予定です。

就農の状況と今後

就農準備 (R3)

- ・農林大学校で研修し、ぶどう栽培や農業経営の基礎を学ぶ。
- ・農大スタッフや市担当者、普及員からアドバイスを受けながら青年等就農計画を作成
- ・市、農業委員会の紹介を受け、農地を確保

現在 (就農1年目)

- もち米栽培 20a
- ・加工所と自動餅つき機を取得し、もちの生産を強化。
 - ・地域グループとの協働で生産、販売を行う。
 - ・来年のぶどう栽培開始に向けたほ場準備など

今後の目標 (就農5年後)

- ぶどう栽培 20a
もち米栽培 80a
- ・ぶどうはシャインマスカットを生産し、JAへ出荷。
 - ・もちは市外スーパーへも販路を拡大。
 - ・農業所得の目標は268万円。

(営農類型：露地野菜)

匿名希望 さん (39歳)

新規就農を志した経緯・背景

前職を退職後、就職サポート機関の紹介で農業法人のアルバイトに従事し、じねんじょ栽培に関心を持った。

農作業に従事する中で、農業の楽しさや喜びを感じ、自分で農業経営をしたいと考え、就農を決意。市等に就農相談の上、2年間の就農前研修を経て、令和4年に経営開始。

導入した機械・施設等

トラクター25ps



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・指導農家や県農林水産事務所等に相談し、青年等就農計画を作成する中で、農機や装備品の能力、種類を決めていった。
- ・青年等就農資金を活用し、初期投資の負担軽減を図った。
- ・事業の活用や納入に時間を要するため、その間に指導農家から農機を借りることができるよう相談した。

導入の効果

じねんじょ栽培には土壌をしっかりとほぐすことや、田の排水対策を実施する必要がある。適切な能力のトラクターを整備できたことで、排水対策のためのサブソイラー施工や、目標年の経営面積を達成できる耕起が可能となる。

就農の状況と今後

就農準備 (R1~2)

- ・令和2年に研修開始。
- ・農業次世代人材投資事業(準備型)を活用し、やまぐち就農支援塾担い手養成研修を2年間受講。うち1年はじねんじょ生産法人へ長期農家派遣研修。
- ・経営開始前から人・農地プランの地区座談会に出席し、就農意向を地域のみなさんへ伝えた。

現在 (就農1年目)

- ・じねんじょ30aで経営開始。
- ・就農1年目は、指導農家や農地最適化推進委員の協力により、60aを集積。
- ・じねんじょ生産法人と連携し、販路を確保する。

今後の目標 (就農5年後)

- ・じねんじょの栽培面積を1haまで拡大させる。
- ・近隣の農地集積を進め、経営面積は3haを目指す。
- ・400万円以上の売上を確保し、目標所得達成を目指す。

匿名希望 さん (41歳)

(営農類型：露地果樹)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業で20年勤めていたが、仕事に追われ、家族との時間を大切にしたいと思い、就農を決意した。栽培する品目として「すだち」を選択した理由は、後継者不足であると知り、力になりたいと思ったこと、また、より多くの人に知ってもらいたいと考えたため。

導入した機械・施設等

- すだち貯蔵用冷蔵庫
- 冷蔵庫設置用パイプハウスの増設



初期投資を行う上で留意したポイント

- 必要な機械を経営の初期段階から利用できるよう、研修中から少しずつ計画的に導入した。
- 研修中に周囲の農家との関係を築き、営農に必要な情報の収集を行った。
- 導入する機械・施設は、研修機関や先輩農家とも相談の上選定。

導入の効果

- すだち貯蔵用冷蔵庫の導入によって、長期冷蔵貯蔵による出荷期間の延長が可能となり、市場価格の高い時期に出荷することで所得の向上につながった。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~3)

- 令和2年に研修開始
- 2年間の実践研修を通じて、栽培技術等を身につけた
- 円滑に就農できるよう、農地の貸借手続など、計画的に準備を進めた

現在 (就農1年目)

露地すだち69a

- 研修終了の直後から農業経営を開始
- 順調に経営面積を拡大
- 農薬使用量の低減を試行

今後の目標 (就農3年後)

露地すだち110a

- 新たな品目にも積極的に取り組んでいきたい
- 成園を確保し、さらなる経営面積の拡大を図りたい

武政 大地 さん (31歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

昔から二ら農家である親の手伝いをされていて、いずれ自分でも農業をしたいと思っていた。農業協同組合の出荷場に勤めている時に、農家と情報交換をしている中で就農を決意。令和4年にハウスを建設し経営を開始。

導入した機械・施設等

被覆展張工事 32.2a



初期投資を行う上で留意したポイント

- 経営開始前に営農計画を作成したが、ハウス資材の高騰により設備投資が想定より大きくなった。
- 今後の経営発展のことを考え、自然災害に備えた高強度ハウスや高品質かつ多収量を実現するための統合環境装置の導入が必要であると判断した。

導入の効果

- 高強度ハウスの新設により、自然災害に対し安心して就農することができた。
- 今後は統合環境装置を使いこなし、地域平均以上の収量確保を目指していく。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~3)

- JA出荷場で情報収集、父の農作業の手伝いをしながら、就農を検討。
- 関係機関と設備投資内容や補助事業についての打合せを行いながら、営農計画を作成。

現在 (就農1年目)

- 施設二ら 32.2a (ハウス1棟)
- 経営発展支援事業と県単独補助事業を活用してハウス1棟を建設し、独立自営就農。
 - 農業所得は、△322万円の予定

今後の目標 (就農5年後)

- 施設二ら 52.2a (ハウス2棟)
- 2年目に妻も就農し、夫婦で経営開始。3年目に20aの規模拡大の予定。
 - 農業所得は、450万円を目指す。

田上 直人さん (29歳)

(営農類型：酪農業)

新規就農を志した経緯・背景

- 酪農家の三男として生まれた。畜産以外の大学に進学したものの、幼い頃から動物が好きであり、酪農経営を行いたいとの思いから、インターンで酪農家に行き、改めて酪農の良さを再認識した。
- 実家の酪農は兄が継承したため、独立新規就農を目指して、後継者育成に定評のある酪農家で3年半の研修を行った。

導入した機械・施設等

- 堆肥舎1棟 150㎡
- 家畜導入3頭



初期投資を行う上で留意したポイント

- 酪農で新規就農を行うためには莫大な初期投資が必要であった。そのため、初期投資について精査したうえで、経営発展支援事業、県の新規就農事業、農業団体の新規就農者向け家畜導入事業などを有効活用。融資は青年等就農資金、農業近代化資金を効率的に活用した。
- 妻の両親が元畜産農家であり、牛舎敷地や残っていた施設を活用して投資を抑えた。

導入の効果

- 堆肥舎を建設することにより良質堆肥を製造でき、耕種農家への供給が可能になった。
- 遺伝的に優れた初妊牛3頭を導入したことにより更なる乳量増加が期待できる。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~4)

- 家畜人工授精師、農業機械の免許取得
- J Aや町の指導を受けて青年等就農計画を作成し、補助事業や青年等就農資金、農業近代化資金を借りた。
- 養父母の敷地に牛舎・施設を建設。

現在 (就農1年目)

- 経産牛35頭 (うち搾乳牛29頭)
- 研修先の酪農家から搾乳牛を導入し、経営開始直後から搾乳を開始。
 - 飼料高騰の厳しい状況の中で、乳量は33kg/日・頭と良好な成績。
 - 常に牛舎に居て、牛や便の状態を観察し、事故対応をしている。

今後の目標 (就農3年後)

- 経産牛40頭 (うち搾乳牛35頭)
- 夏場の暑熱対策のため、細霧装置を導入。
 - 飼料倉庫を建設し、自家配合を行う。
 - 農業所得の目標は753万円

匿名希望 さん (28歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

会社を辞め知人の農作業の手伝いをした時に、一見簡単そうな仕事に見えたが、自分で実際に作業すると難しく、栽培技術など覚えることも多くある事を知った。自分にとって面白い仕事だと思い、農業をしようと決心した。

導入した機械・施設等

- ・光合成促進機 2台
- ・循環扇 11台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・将来にわたって経営を安定させるためには、しっかりとした収量をあげる必要があると考えていたため、それに必要な設備を経営開始時に導入することとした。
- ・設備の選定については、農業研修時の農家仲間や町担当者などに相談した。

導入の効果

- ・ハウスを増設せずに増収が見込まれ、ハウス全体の温度・湿度斑解消による病気回避、省エネ対策の効果を期待している。
- ・栽培管理技術の向上と導入した設備を活かすことにより、確実な増収益が出来ると考えている。

就農の状況と今後

就農準備 (R3.7~R4.6)

- ・県の認定研修機関で研修
- ・JA、関係機関から就農計画に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成
- ・農業次世代人材投資事業（準備型）の活用により研修中の生計を維持
- ・農耕用の牽引免許を取得

現在 (就農1年目)

- きゅうり (22a)
- ・離農農家のハウスを継承し経営開始
 - ・両親及び1名の従業員を雇用

今後の目標 (就農5年後)

- きゅうり (22a)
- ・地元直売所等にも出荷先を拡大
 - ・自己の栽培技術確立後、環境制御装置を導入し、スマート農業化を目指す。
 - ・農業所得の目標は340万円

竹之内 憲俊さん (39歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

祖父母が南九州市穎娃町にてお茶農業を営んでいたことで、子供の頃から農業が身近にあった。社会人になり、小売業を中心に関わってきた中で、コロナ禍での生活変化（在宅・内食）をきっかけに、食の安心・安全への追及や有機農業全般への興味が湧き、就農する決意をした。R3年度に研修を受講し基礎的な栽培技術を学び、R4年4月より独立・自営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 1台 22ps
- ・堀取機 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に定植計画や販売計画を作成していたが、将来にわたって経営を安定させるには初期投資をしっかりと行う必要があると考え、投資計画を練った上で必要な機械は積極的に導入した。
- ・圃場規模拡大を見据え、トラクター等の必要性・作業効率化を期待。どのような能力・馬力を要する機械を導入すると良いか、経営開始前から地域の先輩農家に相談した。

導入の効果

- ・トラクターと堀取機を導入することにより、圃場管理が効率化でき、年間を通した栽培・出荷が可能になった。
- ・堀取機は、さつまいもの収穫作業効率・時短化が飛躍的に進み、段階的に規模を拡大できた。
- ・就農5年後、稼働圃場を就農時の150%増（100a）を目指し、更なるさつまいもの規模拡大にも努めていきます。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

- ・令和3年5月より研修開始
- ・市農政課や県振興局普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成
- ・近隣先輩有機農家からの実地指導
- ・有機JAS勉強会参加

現在（就農1年目）

さつまいも 5a
人参 3a、オクラ 5a

- ・独立営農開始、定植計画遅れをシルバー人材でカバー（臨時雇用）
- ・事業でトラクターを導入した事で作業効率アップ・経営規模拡大
- ・農業収入は約30万円

今後の目標（就農5年後）

さつまいも 40a、馬鈴薯 40a
玉ねぎ 40a、人参 10a、オクラ 10a
らっきょう 10a、ニンニク 5a

- ・販路を新たに開拓し、産直市での直販やインターネット販売にも着手
- ・さつまいも規模拡大と少量多品目
- ・有機JAS認証取得
- ・農業所得の目標は160万円

山元 真之介さん (30歳)

(営農類型：露地野菜 [根深ネギ・ゴボウ])

新規就農を志した経緯・背景

祖母のもとで農業を経験した事から農業に興味を持っていました。前職を退職した後、思い切って農業を始めました。地域の気候を生かすことができ、ブランド力があるネギとゴボウを選びました。二品目を組み合わせることで労働力を分散させ、高収益農業を目指しています。今後は農業を通じて地域の活性化を計りたいと考えています。

導入した機械・施設等

- トラクタ1台 (33馬力)
- ネギ根葉切り機 (皮むき機セット) 1台
- ネギ掘取機 (ゴボウ堀部付) 1式



初期投資を行う上で留意したポイント

- 効率的で安定的な栽培を図るため、将来を見据え機械導入を行った。
- ネギとゴボウを選択することで、連作障害の対策と機械の互換性を図るよう兄からアドバイスを受けた。

導入の効果

作業の効率化と労働時間の短縮により、規模拡大が可能となった。

就農の状況と今後

就農準備 (R3)

- 兄からアドバイスをもらいながら技術を取得
- JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成
- アルバイトにより生計を維持

現在 (就農1年目)

- 根深ねぎ (夏まき) 20a
- 新ごぼう20a
- 関係機関の指導を受けながら確定申告
- 親族の紹介で農地を確保

今後の目標 (就農5年後)

- 根深ねぎ (春まき) 40a
- 根深ねぎ (夏まき) 40a
- 新ごぼう30a
- 農業所得の目標は166万円

匿名希望 さん (30代)

(営農類型：繁殖牛)

新規就農を志した経緯・背景

父が畜産農家であり、県農業大学校で畜産の基礎を学ぶ中で、自分の繁殖雌牛の導入（増頭）を図り、安定した経営に努めたいと思った。卒業後はすぐ独立・自営就農を開始するのではなく、地方公務員として外から流通やマーケティング、財務諸表などの知識を身につけ、令和4年に経営開始した。

導入した機械・施設等

- ・鉄骨牛舎1棟



初期投資を行う上で留意したポイント

経営開始前に生産ローテ（1頭ごとの種付や分娩時期）の計画を作成していたが、将来にわたって経営を安定させるには初期投資をしっかりと行う必要があると考え、県の技術職員と償還計画を練った上で施設や繁殖牛を積極的に導入した。

導入の効果

- ・生産ローテどおりに種付等ができるため、安定生産につながる。
- ・今後は分娩監視カメラを導入しつつ、段階的に頭数を拡大する。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R3）

- ・親や地域の方からアドバイスをもらいながら技術を取得。親の経営を手伝い生計を維持。
- ・県や市の技術職員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農1年目）

肉用牛20頭

- ・親の経営とは別に経営を開始
- ・出荷まで収入がないため、親経営の作業受託により生計を維持。

今後の目標（就農5年目）

肉用牛30頭 販売頭数26頭

- ・青色申告を実施し、経営分析を行い、収益性を高める。
- ・分娩監視カメラを設置し、事故率の低減や労働力の軽減を図る。
- ・農業所得の目標は338万円

佃 和絵 さん (42歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

小さいころから親の手伝いをしていたが、自分の生まれ育った地域で就農したいと考えるようになった。耕作放棄地が増えてきているので、少しでも解消に貢献したい。適期管理等を行い、品質の向上を図り、所得の増加を目指していきたい。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 1台
- ・野菜移植機 1台
- ・ねぎ調整機 一式



初期投資を行う上で留意したポイント

機械等の購入に当たっては、必要最小限にとどめ、他の機械は、貸借を継続し、経営状況を見据えながら、随時整えることとした。また、目標経営規模に適応した機能・規格とし、過剰投資を抑えた。

導入の効果

1年目は先輩農家からの貸借で対応したが、植付け時期等が重なることもあり、作業が遅れ気味となった。

次期作からは適期作業が可能となり、作業の効率化が図られ、その分を品質向上の時間に充てていきたい。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~3)

- ・親の経営を手伝いながら、年間の作業手順や栽培技術を取得。
- ・新規作物の深ねぎは、地域の先輩農家の指導を受けてきた。
- ・市の担当者やJA等の協議を重ねながら、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

らっきょう	10a
島らっきょう	10a
深ねぎ	20a

- ・令和5年5月から収穫開始予定。
- ・現在は、適期管理により、病害虫対策に気を配っている。

今後の目標 (就農5年後)

らっきょう	50a
島らっきょう	10a
深ねぎ	50a

- ・農地中間管理機構の活用により規模を拡大。
- ・農業所得の目標は300万円

中村 隆太郎さん (21歳)

(営農類型：水稻・露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

地元（福山町）では、水稻農家の高齢化に伴い荒廃農地が増えつつある。慣れ親しんだ風景が衰えることが非常に残念であり、何とか守っていききたいとの思いから新規就農を志した。

導入した機械・施設等

トラクター45PS 1台
グランドロータリー 1台
水田ハロー 1台 トレーラー 1台
田植機（6条） 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・規模拡大するにあたって、利便性がよく作業効率のよいものを導入すること。
- ・将来にわたって経営を安定させるには初期投資をしっかりと行う必要があると考え、必要な機械を積極的に導入した。

導入の効果

水稻の作業効率化を図ることにより、ネギやスイートコーンの管理へあてる時間を増やして更なる規模拡大・品質の向上を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

外部リンクは
[こちら！](#)

- ・令和3年5月に研修開始
県立農大チャレンジ研修中に
[農業機械化研修](#)で免許取得
- ・霧島市新規就農支援センターから
営農計画等に関するアドバイスを
受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農1年目）

- 水稻500a スイートコーン40a
根深祢 10a
- ・親の農業経営を継承
 - ・事業で機械を導入し生産性向上
 - ・父、母、祖母と家族経営協定を締結

今後の目標（就農5年目）

- 水稻1300a スイートコーン50a
根深祢 50a
- ・ネギ管理機、調整機等の導入により、更なる規模拡大、生産性向上等に努める。